

LET'S

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成23年9月号

うるわし通信

これでいいのか歴史街道



桜井駅北口から「歴史街道・山の辺の道」という案内板が歩道に規則的に埋め込まれている。これに従って北へ400m、三っ目の信号を渡れば「ヤマト」だがここで右折の案内板があり、東へ100m向かう。駅から7～8分のところだ。店舗の軒下のような感じのところへ出る。一寸とまどうのだが、これはまだ良い方で、車道を挟む反対側の北側は歩くスペースが全く無い。この状態が少し先にあるJR踏切を越えた向こうまで、全長約100mほど続き、しかも踏切を越えるといま来た歩道は突然北側についている。まことに歩行者泣かせの道である。

このことは、この道を逆に、つまり「歴史街道・山の辺の道」の帰り道として歩くといっそうはつきりする。踏切と電柱と建造物が障害物として立ちほだかっているのだ。観察する

と、朝は小学生児童が登校に利用する。ボランティアの数が、孫をいたわるような感じで誘導しているが、乗用車もトラックも、肩にふれるように通過して、とても危険だ。昼の前後は「スーパーオークワ」への買い物客が往来する。午後しばらくすると、下校の児童たちが、おそろおそろ通過する。この頃から三輪山方面からの帰りの観光客の小グループが、時には数百名の大グループが通る。この間、車両は遠慮なしに歩行者にふれ合わんばかりに通る。

ここは市道大福慈恩寺線・JR貯木場踏切と称するらしいが市道とは名ばかりの危険道路だ。どうやら市道としての買収について地権者との話し合いが進展してないのだ。現状では明らかにこの一画は児童、観光客を含め、善良な

市民の通行権を妨げている。

市は地域住民390名の署名を受取ったそうだが、「山の辺の道」は全国的に知名度が高く、年間600万人の観光客が訪れる歴史街道だ。それへ通じる市公認の案内道路がこういうことで良いのだろうか？

市は観光都市を目標に掲げているが、観光は何よりも人間にやさしい心、もてなしの心が大切だ。こういう歩行者を苦しめる道を放置しておくのは桜井の恥だ。一日も早い解決を要望したい。



通学の旗持ち当番から 福島 千佳

(敬称略)

「はい、ここから一列になって、端に寄ってねー！」旗持ち当番の朝、踏切に近づくと、決まって子どもたちにそう言う。そして、車から子どもたちを守るように、旗でわずかな通路を確保する。あの踏切を通り、登下校する子どもを持つ親たちは月に一度程度、交代で旗持ち当番をしながら、ボランティアの方々といっしょにその安全を見守っている。この踏切を通らねばならないすべての親が、すべての子どもたちが、ここは危険な道路だと日々感じながら、変わらぬ現状に疑問を持っている。時折、スピードを出したトラックが横を通過してゆく。「何か起きてしまう前に・・・」そう願わずにいられない。

地域住民から (取材者のまとめ)

地域では行政の対応の鈍さに怒りの声が満ちていました。通学ボランティアを6年間休みなく続けている方、5年間続けている方は雨の日は傘が車に当たりそうになったり、前が見難い状態になり、いっそう危険度が増すので、一日も早い歩道建設を希望されながらも、過激な行動を慎みたいという良識派で市議会の質疑応答に一喜一憂しながら経過を見守っておられます。この方々はもう高齢です。

**買物客から 原田 恵理**

踏切のポールが上るや車、自転車、歩行者がわれ先にと一斉に動き出す。現代人は急がされている。私は夕食の食材を両の手に提げ脇を絞めて、歩道なき乱暴な道へ・・・私はカニ歩きが随分と上手になった。

観光客から 大津市 宮内 礼二

前回、大神神社に参拝の後、山の辺の道を歩いて帰った。大和川を越えて、踏切のところまで歩道が無く、道を間違えたかと一瞬思った。出会った人が親切な人で助かった。不慣れな旅行者へ安全な歩道をお願いしたい。

障害者から 岩垣 カヨ

自転車で週3回透析に通院しています。ヤマトーの前を通り踏切になると急に狭くなり、どうしようかと思えます。目に障害があります。前だけを見ながら、ぶつけないでねと願いながら通っています。少しでも広げてほしい。

ドライバーから 中野 江美

子どもが塾に通っている頃、車で送り迎えしていたのですが、暗いし、狭いし大変でした。歩道が出来るとドライバーも楽なのです。

日本最古の道「山の辺の道」を想う 談山神社宮司 長岡 千尋

山の辺の道を、広く国民に知らしめたのは、わが桜井市が生んだ偉大なる文芸評論家・保田 與重郎先生である。古代の道は、場所と場所とを結ぶ政治経済的な道路ではない。その道には人の歴史があり、信仰的な祈りがある。しかし、この古道への観光的な配慮が欠けているようだ。桜井駅から山の辺の道の起点にいたるJRの線路の前後の道が狭く、観光客には危険である速やかに道路整備を行っていただきたいものだ。

平等寺副住職 丸子 孝仁

踏切に近づくと急に道幅が狭くなり、その上、踏切西側にある電柱がさらに道幅を狭め視界を遮る。子供達が登下校の間は見守る方々がいるが、普段は誰も見ていないので非常に危ない。自転車がトラックに巻き込まれそうになりながら走るのは、もう見ていられない。出来る限り早く何とかしてほしい。

畿央大学教授 うるわしの桜井をつくる会アドバイザー 三井田 康紀 (敬称略)

山の辺の道は桜井市の誇る歴史的古道である。桜井駅からの歩道に埋めこまれた案内板もなかなか良く、これに沿って歩くと山の辺の道に行くようになっている。惜しいことに途中の踏切の前後、歩道が全くない。諸般の事情はあろうが、山の辺の道はハイキングと歴史探訪をかねる貴重な観光道である。案内道として歩行者のための安全な歩道を建設することは、この道を通学、通勤、買い物などに利用する市民にとっても、幸せなはずであり、まちづくりの緊急な課題である。

古代大和を考える会 会長 芝 房治

桜井市民は市の古い歴史を観光・見聞して戴くため、多くの人々が市にお越し下さることを願っています。その観光客をいざなう歴史街道が、危険な踏切のまま放置されていることは、市民の恥です。一日も早い解決を願います。

うるわしの桜井をつくる会 常任理事 吉田 忠雄

わたしは2008年4月の初当選以来4年間、6回にわたりJR踏切の拡張と通行の安全対策について議会でとりあげてきました。今年3月議会で市長は「現在、隣地地権者とJRとの一部境界の調整が残っており、解決をされればただちに用地確保の作業に取り組む」と答弁しました。地元区長をはじめ地元のみなさんの熱心な運動が、少しずつ行政やJRを動かしてきています。

桜井市観光協会 会長 松井 正剛

「歴史街道山の辺の道を歩く」という観光イベントでは会員やライオンズの仲間200名と歩きました。「山の辺クリーンキャンペーン」はもっと大人数と一緒に歩きました。その度に、とても危険だと思いました。しかも、ここは通学路です。早く解決してもらいたいものです。

関西電力担当者

電柱の移転について、市からのお話しは5年前からありました。土地問題が片づけば、ただちに要望に応じたいと思います。

桜井市長 谷奥 昭弘

問 JR踏切というとJRに問題があるようだが、本当は設計の段階で歩道を考えていなかったのでは？ 観光道路としての認識はありますか？

答 踏切の存在が、道路拡幅について国の制約をクリア出来なかった。

問 誠意をもって交渉し、その経緯を公表すべきでは？

答 地権者と合意に至ったが、何故だか翌日白紙に戻されたということもありました。

問 観光客の声を聞くと、踏切の前後に歩道が皆無であることに当惑している。折角、駅前から立派な案内板を埋め込んでいるのに、この区間の不整備で評判を悪くしている。

答 要望は受けとめていますが、地権者との交渉はきわめて困難な状況なのです。

桜井市教育長 雀部 克英

歴史街道として、あの道路をみるのは、新しい視点です。いままでは通学道路・生活道路ということで論議されてきました。この歴史街道をふるさととして子どもが育つことは、教育上とても有意義なことです。問題の区間の歩道整備は、もちろん希望するところです。

◆「歴史の街・桜井」は「住みよい街・桜井」でなければなりません

一日も早い解決が待たれます！◆



事務局だより

記紀万葉プロジェクト協議会の発足に向けて県が動き出しました。わたしたちはこれにどのような関わり方をすれば良いのか。事務局は9月5日午後から県の担当者を招いて学習会を開催しました。

9月の常任理事会は9月16日午後7時よりエルト桜井第6研修室にて開きます。

部会だより

広報部会 シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」を20ページの冊子として近日中に発行します。

文化部会 9月に談山神社で「談山セッション」を10月には土舞台顕彰会で「桜井うたがたり」を、ともに新しい文化を創造しようという前衛精神に期待しています。

産廃部会 産廃問題特集号「うるわし通信第2号」は、高田地区産廃問題がよくわかると、市民からの声は好評でした。

観光景観部会 桜井市観光協会は現在市内にある、62基の万葉歌碑をめぐる歌碑ラリーを実施しています。この歌碑にはキーワードをそれぞれ表示し、20基以上まわると素晴らしい景品が当たります。歌碑ラリーのコースはJR桜井駅か、市観光協会にある「大和の古道紀行」パンフレットを持って廻って下さい。

イベント案内

談山セッション～ 日本人とは、魂の源流～



2011年9月18日（日）受付/11:00開場/12:00

第1部 13:00～15:00 トークセッション&特別ライブ演奏

第2部 15:30～17:00 直会&交流宴会

参加料/第1部3,000円 : 第1部・第2部共通7,000円

申し込み/NPO法人 やまとまほろば文化育成会

〒633-0091 桜井市桜井187桜井駅前郷司ビル2F TEL0744-43-2360

ゲスト・客人 marebito

宗教学者 山折哲雄

著述家 おおえまさのり

映画監督 原 将人

筆筆奏者 稲葉明徳

コーディネーター

談山神社宮司 長岡千尋



「桜井うたがたり」出演者募集 土舞台顕彰会 会長 宮本 貞昭

今回、初めての試みとして「桜井うたがたり」を開催します。富山県高岡市から数名の方が参加されます、地元からも多数のご参加をお待ちしています。

日時 10月22日（土）午後1時30分～ 場所 市立図書館研修室1

参加費無料 参加者に記念品贈呈

お申し込みは桜井市役所観光課内「桜井うたがたり」係

電話 0744-42-9111内線341 応募締切 9月30日（金）

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。

編集後記 取材に協力して頂いた皆さんに感謝します。編集者の個人的意見としては、問題の焦点はこの一画を占有している権利者の存在です。ガンとして立退きに応じないのはアップレであるのか、たんなるワガママか、そのうちに聞いてみたいと思っています。 (あさ)

うるわし通信編集責任者

〒633-0091

桜井市桜井142-5-203

浅川 肇

TEL 090-1961-6345